

## 予測困難な社会を自立的に生きる子どもたちを育む小学校教育の創造

～学習や生活の出来事に対して「見方・考え方」を働かせて、

考えることができる子どもの育成～

現行の学習指導要領には、その着実な実施を通して「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」と示されている。教育課程の編成・実施に当たっては、児童生徒が学校を卒業し社会に出た後も見通した上で、児童生徒や学校、地域の実態に即し、学校教育全体や各教科の指導を通して育成を目指す資質・能力を明確にすることや、各学校の教育目標を設定することが求められており、それらを実現するために必要な各教科等の教育の内容を、教科等横断的な視点をもちつつ、学年相互の関連を図りながら組織する必要があるとなっている。さらに、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことや、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性など、「個別最適な学び」と「協働的な学び」それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが示されている。

3年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、見直しを余儀なくされたこれまでの学校や学びの在り方も数多くあり、さらに、大規模自然災害の発生や「持続可能な開発目標（SDGs）」なども含め、社会を取り巻く環境は予測できないほど急激に変化をしている。

このような中、川崎市小学校教育研究会（略称：小教研）は発足以来70年間真摯に研究と実践を重ね、川崎の小学校教育の充実・発展を目指してきた。現在は19研究会、3900名を超える会員とともに、各研究会から学習指導要領の趣旨を踏まえた授業実践や、教育委員会から出されている「市立学校における教育活動ガイドライン」に基づいた学習場面・行事等の工夫について発信し続けてきた。さらにGIGA端末を活用したオンラインでの研修・研究活動を実施したり、学習におけるGIGA端末の有効な利用法を求め創意工夫しながら実践を重ねたりしてきた。各研究会の研究や実践を進め、その内容を全ての会員と共有していくにあたり、GIGA端末の効果的な活用は欠かせないものとなっていくであろう。また、かわさきGIGAスクール構想に基づく授業改善の推進によって、各教科等の特質に応じた見方、考え方を働かせた授業実践は、各学校の日々の授業を支えたと考える。

本市においては、今年度「第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン」の第3期実施計画の2年目を迎える。特に基本政策Ⅰ「人間としての在り方生き方の軸をつくる」基本政策Ⅱ「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばす」については、本研究会の活動方針「予測困難な社会を自立的に生きる子どもたちを育む小学校教育の創造」を目指した研究・研修活動により、推進していくことができると考える。

以上の考えに立ち、令和5年度は、次の研究活動を小教研の重点とする。

## 1. 研究と実践

(1) かわさき教育プランと学習指導要領の理念の実現に向けた教育課程編成と授業づくりの推進

- ①学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究・研修の充実
  - ・生きる力の育成、育成すべき資質・能力の明確化、主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業改善等
- ②学習指導要領の趣旨を踏まえた日常の授業に生きる指導と評価の研究・研修の充実
  - ・川崎市学習状況調査の結果の活用推進
- ③SDGs や脱炭素社会、Society5.0 時代に向けた持続可能な社会の担い手を育成するための授業実践とその発信

(2) かわさき GIGA スクール構想に基づく授業改善の推進

- ①「かわさき GIGA スクール構想」を踏まえた一人一台の PC 環境を生かした授業実践とその共有

(3) 「川崎市教員育成指標」に基づいた教職員の育成とそれを支える教職員の研究・研修体制の構築

- ①初任者をはじめとした各ステージの職員のニーズに合った研究・研修の工夫
- ②働き方改革の視点から活動が重点化・スリム化されたより参加しやすい研究会活動

## 2. 運営の改善

(1) 創意工夫ある小教研活動の企画運営

- ①授業研究会や研修会の在り方
- ②研究会相互の情報共有

(2) 各学校の柔軟な教育課程編成のための小教研に関連した全市的行事等の整理と連携

- ①連合行事や各種作品展の在り方についての検討
- ②研究会主催行事等についての確認

(3) 「かわさき GIGA スクール構想」における教職員の GIGA 端末を活用した各研究会・研修会・企画会議及び運営会議等の運営の工夫

## 3. 関係諸機関との連携の検討と整理から今後の社会を見据えた組織づくり

(1) 川崎市教育委員会事務局、川崎市立小学校長会、神奈川県小学校教育研究会等関係諸機関とのよりよい連携・協力のための活動の整理

- ①川崎市立小学校長会とのさらなる連携と校長会活動起草方針と連動した役割分担
- ②教育委員会事務局との連携事業の整理と充実
  - ・かわさき教育プランの基本理念及び基本目標を踏まえた児童に身に付けさせたい資質・能力の実践
  - ・働き方改革の視点から連携事業の見直しとスリム化の検討